

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	68	学校名	茨城県立つくばサイエンス高等学校				課程	全日制		学校長名	石塚 照美					
教 頭	小林 正 士				飯島 純一				事務長名	松並 善市						
教職員数	教諭	51	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	0	実習教諭、実習講師、実習助手	8	事務職員	4	技術職員等	4	計	69
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	科学技術科		56	21	74	10					130	31	6クラス			

2 目指す学校像

科学技術に関する探究活動を通して、次世代の科学技術と社会を担う志をもつ人財を育成する学校
大学や企業、研究機関との連携を通して主体的かつ協働的な学びを推進する学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	次世代の科学技術の担い手として、未来を切り開く人財の育成を目指す。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	科学への知的好奇心、探究心を育み、進学後の学びの基礎を築く教育課程を編成・実施する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	科学への知的好奇心、探究心をもち、未来を創る志のある生徒を求める。

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の普通科志向が強く、志願者数が定員に満たない状況が続いている。 ・入学時の基礎学力の差に加え、学習習慣の差も大きく、学力の差が大きい。 ・心因性の疾患による長欠などの特別な配慮を要する生徒が多い。 ・ICT 機器等を用いた授業の展開が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に向けた学校説明会等における PR 活動の継続と工夫。 ・習熟度別学習の運用及び学習習慣の定着に向けた年次、教科担当及び保護者との連携を踏まえた企画と工夫。 ・SC、SSW の活用や生徒・保護者教員間の連携と情報の共有。 ・授業改善のためにタブレット端末を身近なツールとして活用できる学習効果の高い授業の研究と工夫。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査において、四年制大学、専門学校、就職希望者が分散している。また進路希望未定者の数も多い。 ・進学希望者と就職希望者・進路未定者の間に学習意欲の大きな隔たりが認められる。 ・進路に関する行事が年次主導で行われているものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な進路希望者・保護者に対する情報の提供と分析。生徒が自らより高い進路目標を設定し、実現に向けて主体的に取り組める環境の改善と工夫。 ・一人一人の生徒が意欲的に進路について考え、意欲的に学習に取り組める環境の改善と工夫。 ・大学出前授業、大学見学会、進路希望ガイダンスなどの行事について、年次や教科等との連携。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動で指導を受ける生徒数は減少傾向にあるが、様々な特性や複雑な家庭環境など個々の生徒の抱える課題は多い。 ・スマートフォンを利用したSNSによるトラブルは依然として見られる。 ・自転車の登下校中の事故やマナー違反、バイクによる事故が起きている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会時の注意喚起や各学年で実施しているスマホや交通安全の講話に加えて、教科指導や特別活動など学校の活動全般を通じて、他者への思いやりや他者を認め協働していく力を育む。 ・授業中の生徒観察や個別面談等で日頃から生徒の情報を共有し、生徒の課題に寄り添い、生徒の心の成長を支援できる組織体制の改善。 ・生徒指導に関する業務の改善、業務の効率化と教職員の負担軽減の工夫。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動・委員会活動を活性化させるために、役割を分担して活動計画を立て、自主的・主体的に活動する場を設定している。 ・学校行事については積極的に参加する生徒が多く、事後アンケートが実施できた行事については 80% 以上の生徒が満足できている。 ・クラス担任を中心にホームルーム活動を計画的に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に生徒会活動や学校行事の運営を行うためにリーダーとなれる生徒会役員等の育成。 ・適性やキャリア形成などを踏まえた主体的な進路選択及び決定ができるように各ホームルーム活動等において、キャリアパスポートを活用できる環境改善と工夫。 ・担当教職員の負担を軽減できるように業務内容の改善。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のほか課外活動・特別活動について生徒一人一人に対する個に応じた指導による長時間勤務、学科改編に伴う業務過多が主たる要因となり、教員間の業務量のバランスについて不均等な現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の組織改革と業務内容の見直し、ICT 活用による業務の DX を推進することで、教育的効果を低減させることなく、働き方改革を推進する。

5 中期的目標

1	主体的かつ協働的な学びの中で、希望進路実現のための確かな学力を育成する。
2	実体験を通じた教育を実践し、生徒の課題解決力とアイデアを具体化する力を育成する。
3	生徒のよりよい人間関係を築く力、多様な他者と分け隔てなく交流できる力を向上させる。
4	大学、研究機関との連携を強め、国際社会の変化に柔軟に対応できる国際化教育を推進する。
5	生徒の学ぶ意欲や興味関心を高める施設・設備の充実を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学習指導の充実	① ICT 環境を有効に活用し、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。
	② 観点別評価に伴う評価規準を明確化し、年間指導計画に沿った教育活動を展開する。
	③ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業を探究し、生徒一人一人が社会で活躍する礎となる思考力・判断力・表現力の育成に努める。
2 進路意識の高揚と進路希望の実現	④ 科学国際セミナー等により専門領域の学習内容を理解し、進路意識の高揚を図る。
	⑤ 生徒の科学的好奇心を育むため、大学・研究機関との連携を具体的に構築する。
	⑥ 総合型選抜入試を見据えた探究活動の環境を整備し、進路指導体制の確立に努める。
3 特別活動等の充実・発展	⑦ 生徒による特別活動への積極的な参画を通して、生徒が主役になる特別活動を充実させる。
	⑧ キャリアパスポートを活用し、特別活動での学びを振り返り、キャリア形成の手助けを行い、生徒の自己実現につなげる。
4 働き方改革	⑨ 教職員の働き方に関する意識改革を行い、超過勤務時間の削減を図る。
	⑩ 定時退勤日の設定、年次休暇、特別休暇の取得を推進する。
5 授業改善の推進	⑪ 生徒の授業満足度を 4 点満点中、全教科平均 3.5 以上にする。
	⑫ 授業改善に向け、研究授業の開催、他校視察、相互授業参観、校内研修等を推進する。
6 デジタル人材育成実施に向けた環境整備	⑬ 各種コンテストや情報に関する学会等への参加を促進する。
	⑭ デジタル教材の活用により個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進め、ICT を活用した文理横断的な探究的な学びを強化する。